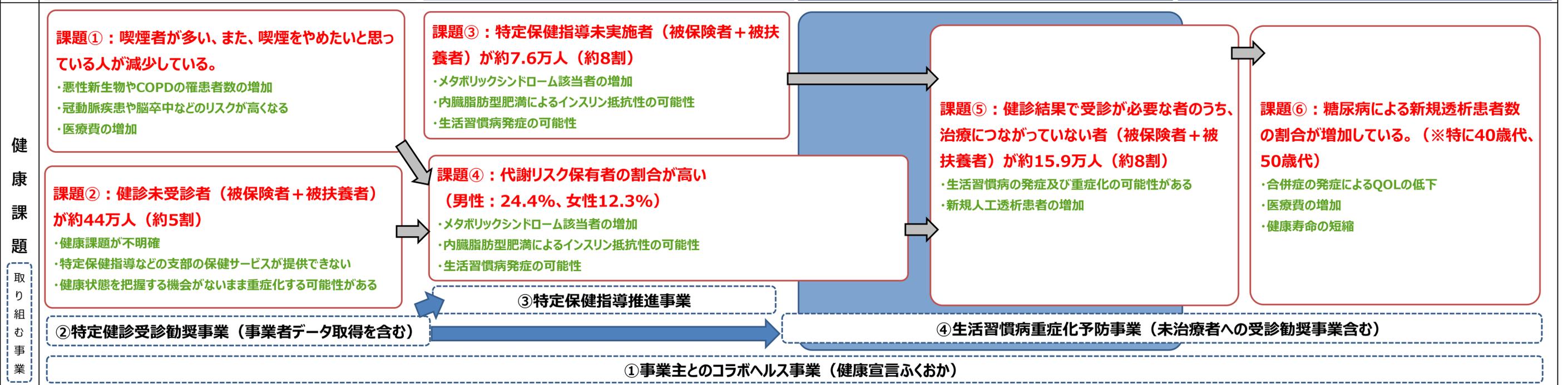


6年後に達成する目標
(健康課題を踏まえた検査値の改善等の目標) 代謝リスク保有者（服薬あり者を除く）の割合を上昇させない（12.9%維持）

健康課題の抽出

● 情報系システムの定型レポート、Zスコア、支部別スコアリングレポート等の医療・健診データから支部の特徴や健康課題を確認し、戦略的保険者機能強化アクションプラン、事業計画、特定健康診査等実施計画のほか、都道府県健康増進計画や都道府県医療費適正化計画等との調和を図りつつ、対策を進めるべき健康課題を抽出する。

	背景、不適切な生活習慣	生活習慣病予備群	生活習慣病	重症化、要介護状態、死亡
現状	<p>【福岡支部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●加入者数：1,879,511人（全国4位） 男性 924,798人、女性 954,713人 ●加入者の平均年齢は、36.52歳で、全国平均と比較して0.82歳低い。（低い方から7番目となっている。） ●加入事業所数：約110,000社 ●健康宣言事業所数（基本モデル）：1,503社（R5.10未現在） ●喫煙習慣がある者の割合が男女ともに全国平均と比較して高い。 ●被保険者（40～74歳）の健診受診率※は65.7%で、全国平均と同程度となっている。 <p>※健診受診率＝生活習慣病予防健診＋事業者健診データ取得</p> <ul style="list-style-type: none"> ●被扶養者の特定健診受診率は23.9%で全国44位となっている。 <p>【福岡県】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●人口は、昭和45年の国勢調査以来、一貫して増加傾向であったが、その伸びは鈍化している。〔福岡県循環器病対策推進計画：P.7〕 ●令和4年現在の高齢化率は、28.3%となっており、全国（29.0%）と比較して低い。また、令和27年には35.2%に増加すると見込まれている。〔令和5年版高齢社会白書（内閣府）〕 ●令和4年度は、平成23年と比較して喫煙率は減少している。（20.2%→16.0%）また、喫煙者のうち、「たばこをやめたい」「本数を減らしたい」人の割合は減少傾向である。（60.0%→52.5%）〔令和4年県民健康づくり調査報告書：P.25、P.26〕 	<p>【福岡支部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「メタボリスク及びメタボ予備群の割合」、「腹囲リスク保有者※1の割合」、「代謝（血糖）リスク保有者※2の割合」が男女ともに全国平均と比較して高い。 ※1 男性85cm以上、女性90cm以上 ※2 代謝（血糖）リスク：空腹時血糖110mg/dl以上又はHbA1c6.0%以上又は服薬している人 ●（被保険者）特定保健指導の実績評価の実施率：21.1%（被扶養者）特定保健指導の実績評価の実施率：18.0% ●加入者全体（被保険者＋被扶養者）では21.0%と全国平均（18.0%）と比較して高いものの、協会けんぽ全体の目標（35.0%）とは大きな乖離がある。 <p>【福岡県】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和元年度の特定健康診査の実施率は、50.3%で増加傾向にあるものの、全国平均（55.6%）より低い。〔福岡県保健医療計画（中間見直し版）：P.17〕 ●令和元年度の特定保健指導実施率は、26.1%で、全国平均（23.2%）より高い。〔福岡県保健医療計画（中間見直し版）：P.17〕 ●令和元年度厚生労働省保険局データでは、メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の割合は28.8%で全国平均（28.2%）より高い。〔福岡県保健医療計画（中間見直し版）：P.17〕 	<p>【福岡支部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和4年度の支部の1人当たり医療費を疾病別にみると、1位「高血圧性疾患」、2位「糖尿病」である。 ●令和4年度の健診結果で受診が必要な人のうち、早期（健診受診月の前後1か月）の治療がない人は、84.2%（158,989人）である。 <p>【福岡県】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高血圧病有病者の割合は、男性47.9%、女性44.0%である。〔令和4年県民健康づくり調査報告書：P.8〕 ●糖尿病が強く疑われる者の割合は、男性38.8%、女性20.2%である。加えて、糖尿病の可能性が否定できない者の割合も、男性4.5%、女性10.1%である。〔令和4年県民健康づくり調査報告書：P.10〕 ●都道府県別1人当たり後期高齢者医療費は令和2年度を除き、平成29年度から令和3年度まで福岡県が1位となっている。〔都道府県別1人当たり後期高齢者医療費の年次推移（福岡県後期高齢者医療広域連合ホームページ）〕 ●後期高齢者医療費のうち、疾病大分類別医療費は、入院、外来ともに、「循環器系の疾患」の割合が高くなっている。また、疾病最小分類別医療費割合では、1位「慢性腎臓病（透析あり）」で、2位「骨折」となっている。〔福岡県後期高齢者医療広域連合保健事業実施計画（データヘルス計画）における令和元年度データ：P.7～9〕 	<p>【福岡支部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●令和4年度のレセプト1件当たりの医療費が高い疾患のうち、4位「くも膜下出血」、5位「腎不全」、9位「脳内出血」など生活習慣病に関連した疾患があげられる。 ●入院医療費では、悪性新生物、循環器系の疾患が高い。 <p>【福岡県】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●全国の平均寿命と同様に年々伸びている。一方で、平均寿命と健康寿命の差（介護を要する等、日常生活に制限のある期間）は、男女ともに全国平均と比較して長い。〔福岡県循環器病対策推進計画：P.5〕 ●主要死亡原因内訳は、全国と同様に悪性新生物（がん）に次いで、循環器病が全死亡原因の2位であり、18.8%を占めている。〔福岡県循環器病対策推進計画：P.3〕 <p>●糖尿病による新規透析患者数の内訳では、40歳代、50歳代及び70歳代以上が明らかに増加しており、40歳代と50歳代を合わせると、令和2年度は半数近くを占めている。</p> <p>●新規透析患者のうち、約4割の者は、透析開始の前年度には、全く医療機関を受診していなかった。</p> <p>〔令和3年度全国健康保険協会福岡支部レセプト分析報告書〕</p>



対策を進めるべき重大な疾患（10年以上経過後に達するゴール） 年間の新規透析導入患者数を2022年度（341人）から増加させない